



#016  
第9回 V-STAR GP

小倉 冴太郎  
130マークX  
兵庫県・28歳

6月のドレフェスで部門1位を獲得した小倉クンの130マークXは、Vスターでも存在感抜群。今回は内装にスエードシート加工を施して、総合狙い。この車種でのパーフェンで魅せるアグレッシブスタイルの先駆けだけに、今後の活躍に期待したい。



エアロは、フロント、サイド、リア全てセンスブランド加工。マフラーも中間ストレートをワンオフし、エンド部も同ブランドの人気パーツ、チタンを装着。



webersportゼニス5ラインとのツライチ感が絶妙な前後15cm出しのオーバーフェンダー。130マークXでも、このようなスタイルが似合うことを証明した。



#017  
J-PROS杯

石崎 静香  
40ソアラ  
北海道・27歳

本誌カバカー歴のある静香サンのソアラが、内外装共にリメイクを終えてエントリー。コンセプトの「エレガント」に合わせ、オリジナルミープラウンで全塗装。F3・R5センチのオーバーフェンダーも最新仕様だ。さり気なくもどっしり感を手に入れた。



サイドミラーは3日かけて自作しました!



理想を求めてメーガレーシングのアームを投入。電子モニター化したサイドモニターが最旬。



フル張り替えのシート、オーディオなど、内装も一新。「シート以外は全て自作で張り替えました」。



#018  
J-PROS杯

阿部 雅文  
15マジェスタ  
北海道・32歳

エアロは前後共にKブレイクがベースだが、フロントはヴァルドのCクラス用、リアは10アルファード用をそれぞれニコイチ。ボディはミニクーパークレーン純正ロイヤルグレーメタリックで全塗装。「8年くらい悩みに悩んで決めた、人と被らないカラーです」。



ホイールは左右で色違いを履いています



「低いまま走りたい」と、エアサスは理想的のスーパーマキシマム。アルミはプロフェッサーVF1。



グリルなどのメッキ部はマットブラックで塗装。4本出しマフラーはセンスブランドのケヴァルト115φ。



#019  
J-PROS杯

古谷 裕介  
31セルシオ  
北海道・36歳

「自己満足様」でドレスアップを楽しむ古谷クン。抜群の存在感を誇るカラーはベント純正ヒヤシンスレッド。エアロは一目惚れしたモードバルファム レガリアを装着。スピンドル風に加工して精悍なフェイスを手に入れた。今後は乗り換えも検討中。



手の込んだトランクオーディオで目立ち度も申し分なし。自作で張り替えた内装も自慢。ホイールはVS-XX。前後共に20インチをチョイスした。



#020  
J-PROS杯

中村 龍志  
16アリスト  
北海道・30歳

「シンプルだけど雰囲気のある極低車」を目指した中村クンの16アリスト。エアロはフルでモードバルファムをチョイスするが、ボン付けではこの極低を実現できるわけもなく、「着地でも走れるよう、地面から少し浮く感じで」、短縮加工を施したようだ。



リップのラインを変更して立体感を。バルファムのフオグは外側のレンズを外し、バンパーとの一体感を強調。リアもご覧の通り、地面スレスレ。



足まわりはボルドのエアサス。「着地で作るために、欠かせないと思って選びました」。ざっくり刻んだダクトがインパクト大。マフラーはワンオフで製作。



#021  
J-PROS杯

大関 貴也  
20セルシオ  
北海道・28歳

フロントはプラスチックのLS用、サイドはKブレイク加工、リアはSADのハイエース用。エアロをあえてメーカーミックスすることで、オリジナルな装いに仕上がった。いかにも速そうなボディカラーは、アストンマーチンのスペクターシルバーだ。



自己満足様でドレスアップを楽しんでいます



カロッツェリアでまとめたトランクオーディオも必見。内装はオレンジとブラックのツートンで張り替え。フオグを浮かせるように加工しているのもこだわり。アルミはSSRプロフェッサーSP3。前後18インチ。

